

ている。学究としてのこまめな地質調査の他、岩手山登山・小岩井農場散策など、時には野宿までしている。青春時代におけるこの体験が作品の背景に描かれているのである。

作品への評価・感想は、一般人から国内外の詩人・作家・哲学者・教育者まで、それぞれの価値観・人生観などから千差万別に及ぶ。例えるに元々一つの白色光がプリズムを通すと七つの色に分かれて元の色と違う感じだろうか。私は、いずれの色も賢治さんの一面と思うことにしている。

## 宮沢賢治作品に

惹かれて

野中 正昭 陸自73

### 1 賢治作品の多面性

岩手山の麓に岩手駐屯地がある。隣接の演習場内笹森山から南方に広がる一帯は賢治作品の多くの舞台となっていて、日本の名勝「イーハトーブの景勝地」に指定されている。

賢治さんは、盛岡高等農林学校在学中の当時、この地を何度も踏破し

訪問し、半時間、詩と宗教などについて話したという。その後、中国へ帰国。国民党の将官で日中戦争終戦を迎えるも、共産党政権下1949年〜78年まで投獄、再投獄され解放後、62歳から四川外国語大学で日本文学担当の教授となり、賢治作品を紹介するなど日中の親善に貢献した。

### 3 学徒特攻隊員

二人目は特攻隊員佐々木八郎氏。昭和20年、沖縄海上で戦死。22歳。学徒出陣前のクラス会で、賢治童話「烏の北斗七星」を論じたエッセイを朗読。以下「」は、あらずし。

「主人公は艦隊の真黒く滑らかな烏の大尉。敵の山烏を殺し無事、婚約者のもとに生還するも、お腹が空いて山から出て来て、殺された山烏に泣き、戦争の無いことを祈る」

以下「」は、佐々木氏のエッセイの一部抜粋

「…僕の最も心を打たれるのは、大尉が「明日は戦死するのだ」と思いつながら、「わたくしがこの戦に勝つことがいいのか、山烏の勝つ方がいいのか、それはわたくしにはわかりません。みんなあなたのお考えの通りです。わたくしはわたくしにき

まったように力一ぱいたたかいます。みんな、みんな、あなたのお考えの通りです」と祈る所と、山烏を葬りながら「ああ、マヂエル様（筆者注：北斗七星のこと）、どうか憎むことのできない敵を殺さないでいように早くこの世界がなりますように、そのためならば、わたくしからだなどは何べん引裂かれてもかまいません」という所に見られる、「愛」と、「戦」と、「死」という問題についての最も美しい、ヒューマニスティックな考え方なのだ。人間として、これらの問題にあたる時

これ以上に人間らしい、美しい、崇高な方法があるだろうか。そして本当の意味での人間としての勇敢さ、強さが、これほどはつきりと現れている情景が他にあるだろうか。「童話だ」とあっさり片付けまい。「愛」

「戦」「死」の本当に正しい、清い、健やかな心情の所有者に写る姿は、正にこうなければならぬと思ふ。」

### 4 賢治作品の魅力

黄瀛氏は父と母の二つの祖国を持つ軍人として中国への忠誠を誓い、憎しみのない「敵」、親交の厚かつた日本の同期士官や詩友と戦わざる

### 2 中国の軍服を着た日本詩人

一人目は黄瀛（こうえい）氏。父中国人、母日本人。賢治さんの10歳年下。中国留学生・近衛師団所属陸軍士官学校第20期歩兵科生（1927年入校し、1929年卒業。同時に詩作活動）。草野心平などから詩人の評価を受けていた彼は、当時無名の賢治さんの作品「春と修羅」に非常な感銘を受け、陸士卒業旅行の際、実家花巻で病床の賢治さんを

訪問し、半時間、詩と宗教などについて話したという。その後、中国へ帰国。国民党の将官で日中戦争終戦を迎えるも、共産党政権下1949年〜78年まで投獄、再投獄され解放後、62歳から四川外国語大学で日本文学担当の教授となり、賢治作品を紹介するなど日中の親善に貢献した。

を得なかつた。勝つたものの投獄というむごさを経験している。

特攻隊員佐々木八郎氏は「愛」と、「戦」と、「死」とを深く思索し、命を捧げる意義を、早くこの世界が敵を殺さないでいいようになるためであるとまで昇華していると思われる。

賢治さんの作品は、なかなか深く読み取れないと感じるが、先の二人の逸話やさまざまな感想を参考に読み返すと「なるほど」と納得するところもあり、そこに私は魅力を感じる。

他の一庭園・地物の名勝と違い、

賢治作品の舞台となる岩手県内6カ所をまとめて指定。鞍掛山(滝沢市)、狼森(雫石町)、七ツ森(雫石町)、釜淵の滝(花巻市)、五輪峠(花巻市)、種山が原(奥州市)

#### 【参考資料】

<https://core.ac.uk/download/pdf/268153834.pdf>〈劉黎の論説〉「国民革命軍将校・詩人黄瀛と陸軍士官学校」

○大貫恵美子『学徒兵の精神誌』岩波書店

○電子文藝館 (sasakihatrou.pdf)

<http://bungaikan.jp/domestic/>

○補足 「イーハトーブの景勝地」